

平成30年度

ニホンザル管理事業実績報告書(市町村実施分)

白石市	1
角田市	2
蔵王町	4
七ヶ宿町	5
川崎町	7
丸森町	8
仙台市	10
山元町	12
加美町	13

令和元年8月

宮城県環境生活部自然保護課



平成30年度ニホンザル管理事業の実績と評価 (市町村分)

白石市

H30計画		H30実績		評価
1 被害軽減目標 (1) 面積(下段前年度) 2.96 ha 3.29 ha (2) 金額(下段前年度) 3,150 千円 3,494 千円 (3) 作物 水稲、りんご、柿、大豆等 (4) その他		1 被害状況 (1) 面積 2.90 ha (2) 金額 3,275 千円 (3) 作物 水稲、果樹、野菜等 (4) その他		被害がなかなか減少せず、これまで出沒しなかつた地区にも出沒するようになっていた。中山間地域では作付けを放棄しており、面積や金額に表れない被害も大きい。引き続き、追い上げ、捕獲、防除対策を強化していく。
2 被害防除対策 (1) 銃器による群れの追い上げ及び捕獲の実施 (2) 電気柵・防護柵の設置に対する補助の継続 (3) 廃棄野菜・生ゴミを適正処理するよう指導の徹底		2 被害防除対策 (1) 実施隊による追い上げ・捕獲を実施した。 (2) 電気柵・防護柵の設置に対する補助を継続した。 (3) 現地、回覧で廃棄野菜・生ゴミを処理するよう啓発、指導を行った。		H30年度被害対策費合計 4,952 千円 追い上げを実施し、39頭捕獲した。 電気柵設置38件1,514,000円を補助した。 被害防除の研修会を開催し、啓発を図った。
3 個体数管理 個体数調整による目標捕獲数 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基数 (1) (2)		3 個体数管理 個体数調整による捕獲数 有害鳥獣捕獲による捕獲数 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基数 (1) (2)		39頭を捕獲した。 1群(戸沢の群れ)1頭に発信器を装着した。
4 生息環境管理 (1) 水稲の被害軽減のため水田周辺の除草作業を推進する。 (2) 山林に接する耕作地での山林側の除草作業を推進する。		4 生息環境管理 (1) 水田周辺の除草作業を推進した。 (2) 山林側の除草作業を推進した。		被害防除の研修会を開催し、啓発を図った。
5 その他 (1)		5 その他 (1)		

平成30年度ニホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

角田市

H30計画		H30実績		評価
1 被害軽減目標		1 被害状況		
(1) 面積（下段前年度）	0.00 ha 0.01 ha	(1) 面積	0.00 ha	被害発生はあったが、軽微なものであった。実施隊員による追い払い、定期パトロールにより被害を最小限にとどめることができた。
(2) 金額（下段前年度）	0千円 7千円	(2) 金額	0千円	
(3) 作物 未成熟トウモロコシ		(3) 作物 未成熟トウモロコシ、さやエンドウ		
(4) その他		(4) その他		
2 被害防除対策		2 被害防除対策		H30年度被害対策費合計 788千円
(1) 柿の実などの放置をなくすよう周知する。		(1) 機会を捉えエサとなるものを放置しないよう呼びかけた。		住民に対し、被害を呼び寄せない対策を推奨するとともに、実施隊員2名による定期パトロールや追い払いにより被害を最小限にとどめた。
(2) 定期的パトロールを実施する。		(2) 7月初旬から翌年3月初旬まで定期的パトロールを実施した。		
(3) 銃器による追い払い、捕獲を実施する。		(3) 定期的パトロール時や出没時に追い払い、捕獲を行った。捕獲はなかった。		
(4) ニホンザル用の電気柵設置を推奨する。		(4) 被害相談等の際し、電気柵設置等の被害対策を紹介した。		
3 個体数管理		3 個体数管理		捕獲実績はなかったが、引き続き、被害防止のための捕獲に努めることで、被害抑止を図る。
個体数調整による目標捕獲数	頭	個体数調整による捕獲数	頭	
有害鳥獣捕獲による想定捕獲数	15頭	有害鳥獣捕獲による捕獲数	0頭	
発信機装着の増設数	頭	発信機装着の増設数	頭	
発信機装着の更新基数	頭	発信機装着の更新基数	頭	
(1)		(1)		
(2)		(2)		

<p>4 生息環境管理 (1) 実施隊による被害防止パトロールを実施 (2)</p>	<p>4 生息環境管理 (1) 実施隊員により、被害防止パトロールを実施した (2)</p>	<p>実施隊員による定期パトロールは、地域の 出没情報の収集や被害抑止に効果的である と思料される。</p>
<p>5 その他 (1) 被害防止対策の呼びかけに努める。</p>	<p>5 その他 (1) 被害相談時に防止のための対策等を提 案した。</p>	<p>住民の意識向上が課題であり、引き続き被 害防止のための備え等、意識向上に努める必 要がある。</p>

平成30年度ニホンザル管理事業の実績と評価 (市町村分)

蔵王町

H30計画		H30実績		評価
1 被害軽減目標 (1) 面積(下段前年度) 0.01 ha 0.02 ha (2) 金額(下段前年度) 37 千円 34 千円 (3) 作物 林檎、白菜 (4) その他	1 被害状況 (1) 面積 0.01 ha (2) 金額 25 千円 (3) 作物 林檎、白菜 (4) その他	防除対策の効果に加え、山の裏りが良かったこともあり、里山への出没が少なかったため、農作物への被害が前年度より減少した。結果、被害面積は目標値を達成し、被害金額も目標値の67%と目標値を大きく下回ることができ、目標を達成できた。	H30年度被害対策費合計 10,944 千円 ・蔵王町農作物有害鳥獣対策協議会町補助金 8,700千円 ・野生鳥獣被害防止施設(電気柵等)設置事業補助金 2,000千円 ・鳥獣被害対策担い手育成事業補助金 244千円	
2 被害防除対策 (1) 銃器及び有害鳥獣駆逐用火火を併用した効果的な追払い、捕獲の実施。 (2) 電気柵、耐用性隔障物の設置に対する補助の実施。 (3) 生ゴミや農作物残渣を適正処理するよう農家へ指導。	2 被害防除対策 (1) 銃器及び有害鳥獣駆逐用火火を併用した効果的な追払い、捕獲を実施した。 (2) 電気柵、耐用性隔障物の設置に対する補助を実施しているが、現在実施している追払い活動や防除対策等で被害の拡大が抑えられている状況であるため、設置に対する補助金の申請はなかった。 (3) 目撃報告等があった農家へ餌となる収穫放棄された果樹や野菜、農作物残渣をなくすことを指導した。	近年、サルの目撃情報が徐々に増加しており、現在までサルの目撃報告がなかった地域でもハナシザルの目撃報告が寄せられているため、今後も追い払い活動や防除対策等を継続して実施し、今後も群れが生息していない環境を維持していきたい。		
3 個体数管理 個体数調整による目標捕獲数 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 50 頭 1 頭 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基数 (1) 生息調査の実施。 (2)	3 個体数管理 個体数調整による捕獲数 有害鳥獣捕獲による捕獲数 1 頭 1 頭 発信機装着の増設数 発信機装着の更新基数 (1) 従来のアトメトリ法を用いた位置特定調査に加え、より精度が高いGPS発信機を用いた生息調査を実施した。 (2)	今後もGPS発信機を用いた生息調査を継続的に実施し、群れの個体数や遊動域、利用地域の変化を追求だけでなく、群れのより詳細な利用場所の把握を試み、今後の対策や方針を検討するための基礎データを収集していく。		
4 生息環境管理 (1) 山林側との境界付近の除草作業により領域の明確化を図る。 (2)	4 生息環境管理 (1) 目撃や被害報告があった農家へ耕作地と生息地である森林等との間について除草を行うよう指導し、森林等から農地へ出没し難い環境づくりに努めた。 (2)	山の裏りが良かったこともあり、里山への出没が少なかったため、耕作地又は宅地と生息地である森林等との間を除草することにより、人気の少ない山林付近の農地又は宅地でも出没を大幅に減少させる効果がみられた。		
5 その他 (1) 南奥羽鳥獣被害防止広域対策協議会との広域的な被害対策の実施。	5 その他 (1) 南奥羽鳥獣被害防止広域対策協議会と連携して必要な対策を講じた。	今後も引き続き南奥羽鳥獣被害防止広域対策協議会との広域的な被害対策を実施し、被害拡大防止に努めていく。		

平成30年度二ホンザル管理事業の実績と評価 (市町村分)

七ヶ宿町

H30計画		H30実績		評価
<p>1 被害軽減目標</p> <p>(1) 面積(下段前年度)</p> <p>6.30 ha</p> <p>(2) 金額(下段前年度)</p> <p>2,470 千円</p> <p>307 千円</p> <p>(3) そば、水稲、野菜の被害軽減</p> <p>(4) その他</p>	<p>1 被害状況</p> <p>(1) 面積</p> <p>0.37 ha</p> <p>(2) 金額</p> <p>344 千円</p> <p>(3) 作物</p> <p>水稲、野菜、豆類</p> <p>(4) その他</p>	<p>前年度と横ばいの実績となったが、計画に対しては大幅に減少した。要因としては、電気柵とワイヤーメッシュの複合柵の整備、電気柵等設置に係る費用の補助が考えられ、今後も継続して行う。</p>		
<p>2 被害防除対策</p> <p>(1) 電気柵設置の推奨</p> <p>(2) 追い払いの実施</p> <p>(3)</p>	<p>2 被害防除対策</p> <p>(1) 電気柵等の設置の推奨を行った。</p> <p>(2) 追い払い活動を重点的に行った。</p> <p>(3)</p>	<p>H30年度被害対策費合計 40,354 千円</p> <p>電気柵等の設置により被害を減少するに至ったが、未設置の田畑を中心に被害があった。電気柵等設置の推奨を今後も継続して行う。</p>		
<p>3 個体数管理</p> <p>個体数調整による目標捕獲数 0 頭</p> <p>有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 200 頭</p> <p>発信機装着の増設数 3 頭</p> <p>発信機装着の更新基数 3 頭</p> <p>(1) 生息調査の実施</p> <p>(2)</p>	<p>3 個体数管理</p> <p>個体数調整による目標捕獲数 0 頭</p> <p>有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 35 頭</p> <p>発信機装着の増設数 1 頭</p> <p>発信機装着の更新基数 1 頭</p> <p>(1) 生息調査を実施し、大型捕獲檻で多頭捕獲に至った。</p> <p>(2)</p>	<p>前年度に引き続き、発信器の装着を行った。また、有害捕獲については、大型捕獲檻を活用し合計35頭の捕獲に至った。</p>		

<p>4 生息環境管理 (1) 取り残し農作物の除去の指導 (2) 耕作放棄地の軽減</p>	<p>4 生息環境管理 (1) 指導は行ったが、未収穫野菜等の放置が見受けられた。 (2) 広報は行ったが、大幅な軽減には至らなかった。</p>	<p>指導方法の改善及び周知の徹底、追い払い隊による呼びかけ等を積極的に行う必要がある。</p>
<p>5 その他 (1) 南奥羽鳥獣被害防止広域対策協議会との広域的な被害対策実施</p>	<p>5 その他 (1) 効率的な追い払い活動及び生息調査の実施、捕獲活動を実施した。</p>	<p>今後も継続して、効率的な追い払い活動及び生息調査の実施を行う。</p>

平成30年度ニホンザル管理事業の実績と評価 (市町村分)

川崎町

H30計画		H30実績		評価
1 被害軽減目標		1 被害状況		昨年度より人里に下りてきて、農地を荒らしている光景が多く確認された。被害報告をしない農家等が増えているため、本来の被害はもっと多いと考えられる。
(1) 面積(下段前年度)	0.32 ha 0.46 ha	(1) 面積	0.22 ha	
(2) 金額(下段前年度)	494 千円 706 千円	(2) 金額	178 千円	
(3) 作物 かぼちや、大豆、トウモロコシ等		(3) 作物 果樹類・とうもろこし・デントコーン・かぼちや		
(4) その他		(4) その他		
2 被害防除対策		2 被害防除対策		H30年度被害対策費合計 19,384 千円
・実施隊による捕獲活動の実施		畑の周辺に多くの群れが住み着いて		①H30農作物有害鳥獣駆除対策業務金2,728千円
・電気柵の普及、補助		いるため、捕獲活動のみでは被害の減少には至らなかった。今後農家にも防除方法を指導していき、地域での防除を図りたいと思う。		②緊急捕獲ニホンザル分、サルパトロール等 3,567千円
・広報等での有害鳥獣の対策紹介				③電気柵補助金 13,089千円 (イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル含む)
3 個体数管理		3 個体数管理		
個体数調整による目標捕獲数	頭	個体数調整による目標捕獲数	頭	
有害鳥獣捕獲による想定捕獲数	50 頭	有害鳥獣捕獲による想定捕獲数	24 頭	
発信機装着の増設数	2 頭	発信機装着の増設数	2 頭	
発信機装着の更新基数	頭	発信機装着の更新基数	頭	
生息域調査の実施		生息域の調査を行った。		
4 生息環境管理		4 生息環境管理		
看板の設置や遊休農地の刈り払いの呼びかけ等の実施。		看板の設置や遊休農地の刈り払いの呼びかけ等の実施。		
5 その他		5 その他		

平成30年度ニホンザル管理事業の実績と評価 (市町村分)

丸森町

H30計画		H30実績		評価
1 被害軽減目標 (1) 面積(下段前年度) 0.10 ha 0.00 ha (2) 金額(下段前年度) 100 千円 0 千円 (3) 作物 水稲、豆類、えんどう、きゅうり、大根、 柿、りんご (4) その他	1 被害状況 (1) 面積 0.04 ha (2) 金額 51 千円 (3) 作物 水稲、豆類、えんどう、きゅうり、大根、 柿、りんご (4) その他	・鳥獣被害対策実施隊による銃器による追払い及び捕獲を、2人体制で実施(年間延べ240日)したほか、週4日間のサル追いやパトロールによる花火を使っての追払いなどの効果があった。・役場に寄せられた住民からの通報内容を、いち早く実施隊員及びパトロール員に連絡し、追払い活動や捕獲につなげ、効果があった。	・鳥獣被害対策実施隊による銃器による追払い及び捕獲を、2人体制で実施(年間延べ240日)したほか、週4日間のサル追いやパトロール員による花火を使っての追払いなどの効果があった。・役場に寄せられた住民からの通報内容を、いち早く実施隊員及びパトロール員に連絡し、追払い活動や捕獲につなげ、効果があった。	
2 被害防除対策 (1) 住民による自主防除対策への支援 ・電気柵設置に対する補助 ・追払い用火火の無料配布(希望者) (2) 鳥獣被害対策実施隊による銃器を使った追払い、捕獲の実施 (3) 追払いパトロール員による花火での追払いの実施	2 被害防除対策 (1) 住民による自主防除対策への支援 ・電気柵設置に対する補助 ・追払い用火火の無料配布(希望者) (2) 鳥獣被害対策実施隊による銃器を使った追払い、捕獲の実施 (3) 追払いパトロール員による花火での追払いの実施	H30年度被害対策費合計 2576 千円 ・電気柵設置に対する補助 30千円 ・追払い用火火、鳥獣被害対策実施隊による銃器を使った追払い、捕獲の実施 2,546 千円	H30年度被害対策費合計 2576 千円 ・電気柵設置に対する補助 30千円 ・追払い用火火、鳥獣被害対策実施隊による銃器を使った追払い、捕獲の実施 2,546 千円	
3 個体数管理 個体数調整による目標捕獲数 頭 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 22 頭 発信機装着の増設数 2 頭 発信機装着の更新基数 頭 (1) (2)	3 個体数管理 個体数調整による目標捕獲数 頭 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 14 頭 発信機装着の増設数 2 頭 発信機装着の更新基数 頭 (1) (2)	・広大な範囲を巡回するため、発信機の装着は場所を特定するのに有効である。サルの群れを中心に追払いを実施し、実施隊員、パトロール員らの連携が効果的に行われている。	・広大な範囲を巡回するため、発信機の装着は場所を特定するのに有効である。サルの群れを中心に追払いを実施し、実施隊員、パトロール員らの連携が効果的に行われている。	

<p>4 生息環境管理 (1) 耕作放棄地の除草や山林の適正な管理を呼びかける。 (2)</p>	<p>4 生息環境管理 (1) 耕作放棄地の除草や山林の適正な管理を呼びかける。 (2)</p>	<p>・6月29日に町内全戸に耕作放棄地の除草や山林の適正な管理をお願いするチラシを配付した。</p>
<p>5 その他 (1) 南奥羽鳥獣害防止広域対策協議会への参加による広域的な対策の研修や他市町との情報交換を行う。 (2) チラシ配付、被害防止研修会の開催により、農作物の被害防止の啓発を図る。</p>	<p>5 その他 (1) 南奥羽鳥獣害防止広域対策協議会への参加による広域的な対策の研修や他市町との情報交換を行う。 (2) チラシ配付、被害防止研修会の開催により、農作物の被害防止の啓発を図る。</p>	<p>・南奥羽鳥獣害防止広域対策協議会に参加し、県境を越えた被害対策などについて連携を図った。</p>

平成30年度ニホンザル管理事業の実績と評価 (市町村分)

仙台市

H30計画	H30実績	評価
<p>1 被害軽減目標</p> <p>(1) 面積 0.09ha未満 (前年度0.10ha)</p> <p>(2) 金額 120千円未満 (前年度94千円)</p> <p>(3) 作物 水稲、長ねぎ、大根、白菜、りんご等</p> <p>(4) その他 (人身被害・生活被害)</p> <p>サルのエサとなる誘引物 (果樹や農作物の残さ等) の除去や適切な管理を所有者に呼びかけ、注意喚起を行うことにより、生活被害の減少や人身被害の未然防止を目指す。</p>	<p>1 被害軽減目標</p> <p>(1) 面積 0.11ha</p> <p>(2) 金額 315千円</p> <p>(3) 作物 大根、ねぎ、かぼちゃ、きゅうり、じゃがいも等</p> <p>(4) その他 (人身被害・生活被害)</p> <p>チラシ等を活用し、サルのエサとなる誘引物 (果樹や農作物の残さ等) の除去や適切な管理を所有者に呼びかけ、注意喚起を実施。</p>	<p>被害面積は昨年度から微増、金額は約3倍に増加した。同時に目標を達成することはできなかった。</p>
<p>2 被害防除対策</p> <p>(1) 日常的な啓発・注意喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サルとの適切な接し方や被害防除対策について、市ホームページに掲載や公共施設での啓発チラシの配架等により広報啓発。 ・出没が多い地域の地区祭り等で啓発。 ・農作物収穫後の残さ処理の指導等。 <p>(2) 出沒情報を受けた際の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出沒地域において、誘引物の除去、周辺の刈り払い・除草、電気柵設置等の被害防除対策の助言・指導。 ・必要に応じて、花火による追い払いを実施。 ・被害状況により、地域の特性に応じた追い上げや箱わなの設置・捕獲を実施。 	<p>2 被害防除対策</p> <p>(1) 日常的な啓発・注意喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「サル群れ情報マップ」により、サル群れの位置情報を平成30年12月12日から提供。 ・市ホームページやチラシ等で、サルとの適切な接し方や被害防除対策、農作物収穫後の残さ処理等について広報及び啓発。 ・宮城総合支所及び秋保総合支所で開催された地区祭りにおいて、出沒啓発。 <p>(2) 出沒情報を受けた際の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、花火による追い払いや、出沒地域の周辺住民への被害防除対策の助言・指導を実施。 ・宮城総合支所管内、秋保総合支所管内において、箱わなによる捕獲のほか、大規模追い上げ・捕獲及び小規模追い上げ・捕獲を実施。 	<p>H30年度被害対策費合計 7284千円</p> <p>計画どおり日常的な啓発や、追い払い・捕獲を実施したことに加え、新たにサル群れの動向を地域の方向けに公開する「サル群れ情報マップ」を提供。</p>
<p>3 個体数管理</p> <p>個体数調整による捕獲数 130頭 (上限)</p> <p>発信機装着の増設・更新数 14頭</p> <p>(1) 群れの生息状況管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電波発信機装着により、群れの位置情報の把握 14群 <p>(2) 個体数調整による捕獲対策 (人里に戻らない群れへの対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱わなによる捕獲実施 設置数 27基 (最大) ・大型捕獲施設による多頭捕獲の実施 (秋保地区の2基に加え、宮城地区に新たに設置予定) ・農地や人家に出没を繰返し、山に戻らない群れについては、地域特性に応じた追い上げ・捕獲を実施。 	<p>3 個体数管理</p> <p>個体数調整による捕獲数 108頭</p> <p>発信機装着の増設・更新数 10頭</p> <p>(1) 群れの生息状況管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に生息する群れ16群のうち、12群に電波発信機を装着。 (2) 個体数調整による捕獲対策 (人里に戻らない群れへの対応) <ul style="list-style-type: none"> ・箱わなによる捕獲 41頭 ・大型捕獲施設による捕獲 52頭 ・銃器による捕獲 15頭 	<p>個体数調整による捕獲数は目標を下回ったものの、これまでの秋保地区に加えて宮城地区にも新たに大型捕獲施設を導入した影響もあり、大型捕獲施設による捕獲数は大幅に増加した。また、電波発信機の装着については、適当な個体の捕獲が少なく、目標の増設・更新数を下回った。</p>

<p>4 生息環境管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群れの位置情報の把握による追い上げや捕獲への活用。 ・効果的な追い上げや捕獲の実施。 ・サルとの適切な接し方や被害防止対策につき、市ホームページや公共施設での啓発チラシの配架等により広報啓発。 <p>5 その他</p>	<p>4 生息環境管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページやチラシを活用しサルとの適切な接し方や被害防止対策について、広報啓発。 ・群れの位置情報の把握を随時行うとともに、市鳥獣被害対策実施隊が主体となり、追い上げや捕獲を実施。 <p>5 その他</p>	<p>計画どおり広報啓発及び追い上げ・捕獲等を実施。</p>
--	---	--------------------------------

平成30年度二ホンザル管理事業の実績と評価（市町村分）

山元町

H30計画		H30実績		評価
1 被害軽減目標 (1) 面積(下段前年度) 0.04 ha 0.01 ha (2) 金額(下段前年度) 100 千円 11 千円 (3) 作物 野菜、柿 (4) その他		1 被害状況 (1) 面積 0.00 ha (2) 金額 0 千円 (3) 作物 (4) その他		昨年度と比較すると、被害面積及び金額が減少しているため、今後も減少する可能性がある。しかしながら、住民からの目撃情報等あることから、引き続き注視する必要がある。
2 被害防除対策 (1) 緊急出動体制の整備、行政区長を経由して、被害を受けた農家個々が追いつい用の花火により追いつい払いを実施。 (2) サルに対して餌付けしないようチラシ等の周知を行う。 (3) 生ごみや未収穫農作物に適正処理するよう農家へ周知。		2 被害防除対策 (1) 生ごみや未収穫農作物に適正処理するよう農家へ周知を行った。 (2) サルの目撃情報の周知を行い、事前の防除を促した。 (3)		H30年度被害対策費合計 0 千円 サルの目撃情報の周知などにより、住民のサルの被害があることの認識が深まり、事前の被害防除が出来ていると考える。
3 個体数管理 個体数調整による目標捕獲数 10 頭 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 頭 発信機装着の増設数 頭 発信機装着の更新基数 頭 (1) これままで捕獲した実績はないが、被害が拡大するようであれば個体数調整のため捕獲する必要がある。		3 個体数管理 個体数調整による目標捕獲数 0 頭 有害鳥獣捕獲による想定捕獲数 0 頭 発信機装着の増設数 0 頭 発信機装着の更新基数 0 頭 (1) 山元町においては、サルの目撃情報等はあるが、群れの確認はなく、生息数も増加している傾向は無いと思われる。		被害面積が減少しているものの、来年度被害が拡大するようであれば調査を行い、被害軽減及び個体数調整のため捕獲に努める。
4 生息環境管理 (1) ・りんご等の摘果作業による摘果物について、適正に処理することを徹底する。		4 生息環境管理 (1) りんご等の摘果作業による摘果物について、適正に処理された。		被害等はなかったものの、放置した農作物が、誘因の原因(餌付け)になっていることも考えられるため、引き続き農家に周知を徹底する必要がある。
5 その他		5 その他		

平成30年度ニホンザル管理事業の実績と評価 (市町村分)

加美町

H30計画		H30実績		評価
<p>1 被害軽減目標</p> <p>(1) 面積(下段前年度) 3.01 ha 3.77 ha</p> <p>(2) 金額(下段前年度) 405 千円 507 千円</p> <p>(3) 作物 水稲, 野菜, 柿</p> <p>(4) その他</p>	<p>1 被害状況</p> <p>(1) 面積 1.60 ha</p> <p>(2) 金額 362 千円</p> <p>(3) 作物 水稲・野菜・果樹・イモ類、自家消費野菜</p> <p>(4) その他</p>	被害面積及び被害額が減った。		
<p>2 被害防除対策</p> <p>(1) 電気柵による畑への侵入防止</p> <p>(2) 被害防除機材への導入助成</p> <p>(3) 音火花による追払い</p> <p>(4) 箱わな, 銃器による捕獲, 威嚇</p>	<p>2 被害防除対策</p> <p>(1) 電気柵による畑への侵入防除</p> <p>(2) 音火花による追払い</p> <p>(3) サル用囲いわな, 銃器による捕獲</p> <p>(4)</p>	H30年度被害対策費合計 15,872 千円 被害面積及び被害額が減り、被害対策として絶大な効果が上げられた。		
<p>3 個体数管理</p> <p>個体数調整による目標捕獲数</p> <p>有害鳥獣捕獲による想定捕獲数</p> <p>発信機装着の増設数</p> <p>発信機装着の更新基数</p> <p>(1) 箱わなによる捕獲頭数の向上</p> <p>(2)</p>	<p>3 個体数管理</p> <p>個体数調整による目標捕獲数</p> <p>有害鳥獣捕獲による想定捕獲数</p> <p>発信機装着の増設数</p> <p>発信機装着の更新基数</p> <p>(1) 実施隊によるパトロール</p> <p>(2)</p>	サル用囲いわなにて45頭の捕獲で大きな効果を上げられた。		

<p>4 生息環境管理 (1) 町ホームページ等での捕獲事業の周知 (2)</p>	<p>4 生息環境管理 (1) 放置された果樹のもぎ取り処分の推進 (2) 耕作放棄地の刈払いの推進</p>	
<p>5 その他 (1) 広報誌等での鳥獣被害防止協議会活動周知</p>	<p>5 その他 (1) 広報誌等での鳥獣被害防止協議会活動周知</p>	